

国際協働グループ学生のゼミ配属の方法について（案）

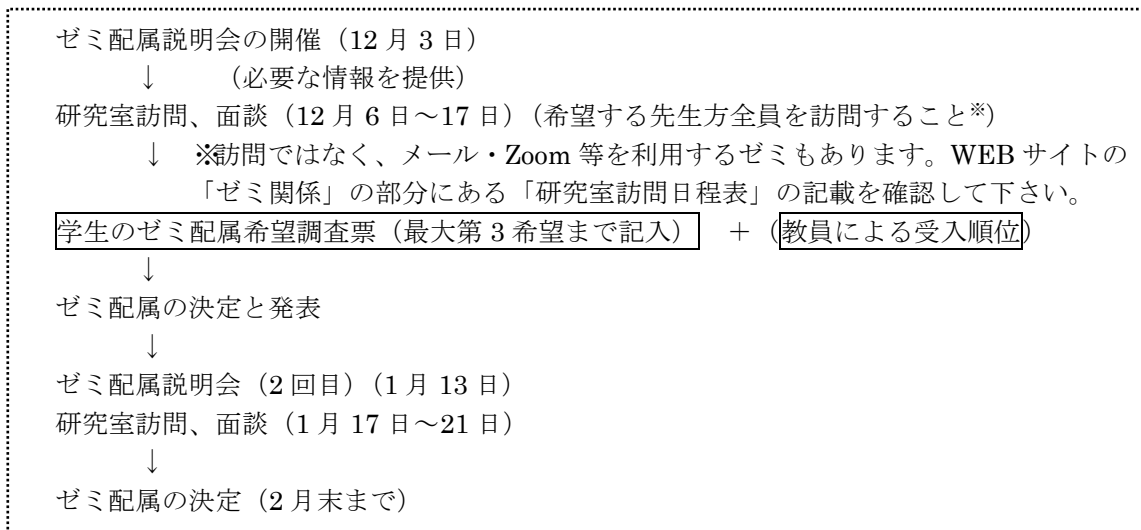
- 「国際協働ゼミナールⅠ」（3年前期）、「国際協働ゼミナールⅡ」（3年後期）、
「国際協働ゼミナールⅢ」（4年前期）、「国際協働ゼミナールⅣ」（4年後期）は必修科目
- 国際協働担当の教員は、それぞれ「国際協働ゼミナールⅠ～Ⅳ」を開設、実施する。
- 学生は、教員が開設するゼミナール（ゼミ）のどれかに所属し、ゼミ担当教員の助言と指導の下に、卒業研究に取り組む。（「卒業研究」4単位は卒業要件。卒業研究の提出期限は4年次1月末）

ゼミ配属の原則

- 各ゼミへの学生の配属を決定するに当たって、学生の希望を尊重すると同時に、各ゼミへの学生の配属数に著しい偏りが生じないように配慮する。
- 教員1人が担当するゼミ指導学生の数は1学年最大7名を原則とする。

ゼミ配属決定までの流れ

- 2年次後期の12月から2月にかけて、ゼミ配属を決定する作業を行う。
- ゼミ配属決定までのおおまかな流れ



※各ゼミの紹介、ゼミ希望学生に対する要件等は、下記WEBサイトを見ること

http://www2.hak.hokkyodai.ac.jp/kokusai_kyodo/seminar/seminar_index.html

(大学HP→函館校→学科紹介→地域協働専攻・国際協働グループ→国際協働グループとは？
→国際協働グループの詳細はこちら→ゼミ関係)

2巡目で学生を募集するゼミ：

飯山、伊藤（美）、今在、木村（哲）、小林、佐藤、高橋（圭）、河、パーソンズ、村田、英語学（来年4月赴任～ゼミ訪問は上山先生が代行）

ゼミ配属後

- 3年次以降、所属するゼミの担当教員が学生指導教員となる。
- 「国際協働ゼミナールⅠ～Ⅳ」の運営方法は担当教員の裁量にゆだねられる。
- ゼミ所属学生のうち、(休学せずに)留学する(している)学生の卒業研究の進め方に関しては、学生指導教員と相談して決定することとする。
- 卒業研究構想レポート提出（3年前期末）
- 中間発表会を3年後期（1～2月ごろ）に公開で実施する。
卒業論文提出後（4年2月初旬）、卒論発表会を公開で実施する。
- 学生は、相応の理由があるとき、所属ゼミの変更を願い出ることができる。ただし、移動の条件が満たされている必要がある。